

セッション2 性能評価・症例報告

07. 当院における、PMMA 膜による持続的血液濾過透析（CHDF）の凝固因子の検討

○山内 貴博（ヤマウチタカヒロ）、吉岡 優海、宮坂 康司、宮崎 千裕、黒木 祐治、
河野 将行、川崎 義隆、澤村 成史
帝京大学医学部附属病院 ME 部

【背景】PMMA 膜は吸着特性を有することから、CHDF 施行中 24 時間以内に起こる回路内凝固が問題となり、凝固因子やライフタイムの検討が行われている。

【目的】当院では、PMMA 膜（CH-1.8W）によるサイトカイン除去目的で心臓血管術後透析患者に対し CHDF を実施しているが度々フィルター凝固となる。そのため、今回フィルター凝固に関する種々の因子を凝固群、非凝固群に分け比較検討した。

【対象・方法】2015 年 8 月～2018 年 12 月間の PMMA 膜で CHDF を施行した 63 例を対象とした。フィルター凝固は CHDF 開始から 24 時間以内に濾過圧 0mmHg 以下、膜間圧力差 100mmHg 以上の何れかに達した時と定義し、凝固群 16 例と非凝固群 47 例で、採血データ、CHDF 施行条件（透析液流量、補液流量、抗凝固薬持続量）について比較検討した。

【結果】採血データ因子では、全て有意差を認めなかった。CHDF 施行条件因子では、透析液流量・補液流量で有意差を認めた。

【考察・結論】PMMA 膜は、補液流量を多くすることでフィルターが目詰まりし易くなる可能性が考えられた。CHDF 施行中のフィルター凝固に及ぼす条件、因子として、透析液流量・補液流量が関与することが示唆された。